Title	福澤諭吉記念文明塾
Sub Title	Fukuzawa Bunmeijuku
Author	坂井, 音重(Sakai, Otoshige)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2019
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. ドイツ語学・文学 (Hiyoshi-Studien zur Germanistik). No.58 (2019.) ,p.253- 254
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	羽田功教授退職記念号 = Sonderheft für Prof. Isao Hada 退職記念に寄せて = Zu Ehren Prof. Isao Hada
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10032372-20190331-0253

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

福澤諭吉記念文明塾

坂 井 音 重

人と人との触れ合いは得難いものだ。ユークリッドの幾何学ではないが、平行線でないものはどこかで交わる。精神性を同じくする人は互いに、共通の接点を瞬時にして感じ取る。万物、生きとし生けるものの直感である。

日本の伝統・芸能は日本人の精神に根ざした「守破離」。「守」は正しく伝えて「守る」。「破」は内なる新しい力から型を「破る」。そして「離」は固定された「枠」の中から大切なものだけを残して「離れ」、独自の創造をする。日本の内面の精神性だ。生き生きとした芸能の継承は、命を吹き込むことが最も大切なのだと常々、私は思っている。

日吉で教壇に立っておられた羽田功教授にお会いした時、この方とは強い接点があると感じた。日吉の「来往舎」で、新たに大学へ入学された塾生と地域の人々に、「能」をご覧頂いた「日吉能」。想像を上回る反響。その折の二人の会話の中で、ドイツに留学された時の実体験。ユダヤ人の方々の話。私が欧州での「能公演」の折に触れ合った、流浪の民といわれる「ロマの人々」。国籍のない「ジプシー」と呼ばれる人々は、独特の旋律で音楽を奏でる。悲しみの内にも情熱がほとぼしり、華やかに演じる。ある時は炎のように。人間の「心の魂」がそこにはあった。国は侵略され、滅ぼされ、各地を彷徨う日々を過ごす。

幾世紀も幾世紀も続けられている、生きようという力。

私の塾の後輩で、極めて親しい中国からの留学生であった^{チェンシン}銭行さん。彼は卒業の折「塾長賞」を受賞したのである。彼は現在 NHK 国際局の管理職で大活躍中であるが、日吉時代、若い助教が親身にアルバイト先を世話し、助けてくれたとのこと。その恩人のお名前は、羽田功先生という方ですよと……。私は、びっくり仰天し言葉に詰まったのである。

慶應義塾創立 150 年記念事業の一環として、羽田教授から「福澤論吉記念文明塾」を立ち上げる相談を受け、引き受ける事にした。

「福澤論吉記念文明塾」は塾生のみだけでなく、社会人にも門戸を開いていた。私と羽田教授の二人で問題を提起し、参加者全員で対論する。

羽田教授は当日の構成、展開等を新鮮な感覚で考えられた。私が提案したのは、日本語が乱れていること。固有名詞以外の「カタカナ語」の使用は全員禁止。福澤論吉先生の訳文「ディベート」を「対論」。これは正に名訳。

「福澤論吉記念文明塾」の第一回目の主題は「文明と文化」。器が大きい。面白い。現代を見据え、アダム・スミスの『国富論』。産業革命と彼の著書の一つ『道徳感情論』。そして「見えざる手」。近江商人の『三方よし』。「売り手によし」「買い手によし」「世間によし」。「商売は売る人、買う人が互いに満足する。社会貢献できるのが良い商売なのだ……」。それには人として他者を思いやる心が大切だ。型だけの礼節ではなく、日頃、己を見つめ、人との信頼を築くこと、また自国の文化を身につけることではなからうか。それにしても今の欲望に満ちた市場経済の様、金が総てという世相はあまりに見苦しい！

「福澤論吉記念文明塾」は、三田のキャンパスで開催された。毎回、熱気に溢れた貴重な成果を上げた。「慶應義塾創立 150 年」の記念行事に相応しく、現代・地球規模の人類の病巣。そして人の幸せとは……？ 未来を見据え、羽田教授は押し付けるのではなく、皆が幅広く捉えられるように見事にまとめられた。